

2020年1月23日

各 位

会社名 株式会社オリエンタルコンサルタンツホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 野崎 秀 則  
(JASDAQ・コード番号2498)  
問合せ先 取締役統括本部長 森 田 信 彦  
TEL 03-6311-6641

## **株式会社オリエンタルコンサルタンツ 前橋市中央児童遊園「るなばあく」に 民間資金を活用し、新規遊戯施設「立体迷路」を設置**

当社グループの基幹会社である株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）の子会社である株式会社オリエンタル群馬（本社：群馬県前橋市、代表取締役社長：中埜智親）は、管理運営を行う前橋市中央児童遊園「るなばあく」（以下、るなばあく）内へ、新規遊戯施設「立体迷路」を設置します。立体迷路は、2020年3月20日（金）より、営業開始予定です。

1月10日（金）に前橋市役所で行われた市長定例記者会見において発表され、立体迷路に関する記事が4社（株式会社上毛新聞社、株式会社毎日新聞社、株式会社日本経済新聞社、株式会社朝日新聞社）で掲載されました。

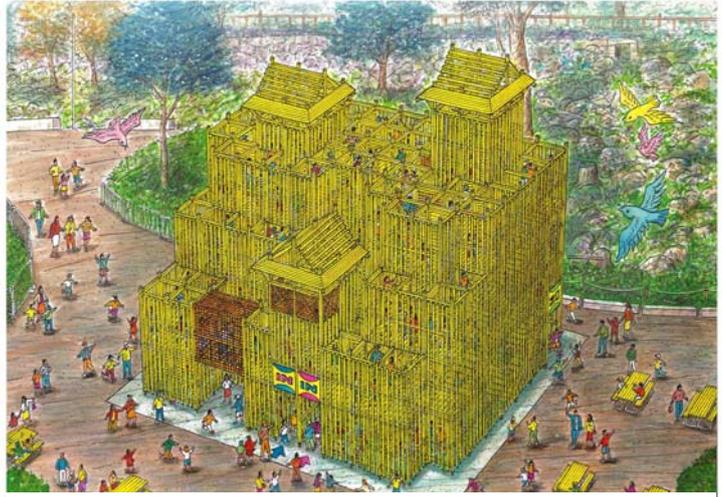
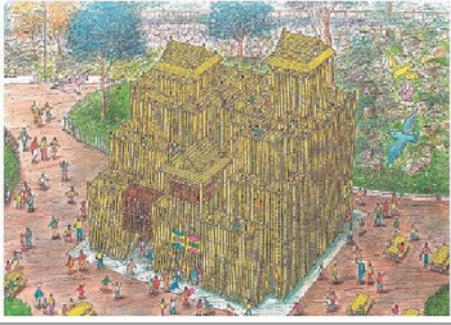
「るなばあく」は、2019年11月1日（金）に開園65周年を迎えました。また、2020年4月からの次期指定管理者公募では、「るなばあく新時代へ」というコンセプトのもと、前橋市に本社を置く企業で構成された共同企業体の「Made in MAEBASHI コンソーシアム」（以下、MMC）[代表企業：株式会社オリエンタル群馬、構成企業：泉野建設株式会社、コーエイ株式会社、株式会社ソワディライト]が指定されました。現在のるなばあくは、老朽化した公共施設の改修・整備と少子化を見据えた新たな事業によるターゲット層の拡大が求められています。そのため、公募時にMMC代表企業である株式会社オリエンタル群馬の民間資金を活用し、立体迷路を設置することを提案しました。なお、立体迷路の基礎・擁壁の施工費は、MMC構成企業である泉野建設株式会社にご協力頂いております。

“るなばあく”という狭い敷地に新しく遊戯施設を導入するには、立体的な整備が不可欠でした。また、るなばあくの設置目的は「児童に健全なる遊びを与えその健康の増進を図ること」であり、様々なからくりや障害を乗り越えることが、子どもの知育や体育につながり、児童の健康の増進が期待できると考え、立体迷路の導入が最適であると考えました。

### 【立体迷路の概要】

- 工事期間：2020年1月14日（火）～3月6日（金）※天候等で変更する可能性があります。
- 営業開始日：2020年3月20日（金）予定
- 営業時間：9時30分～17時00分（るなばあく開園時間内 閉園時間30分前が最終入場）
- 休業日：火曜日・雨天日（るなばあく休園日に準拠する。）
- 設置場所：るなばあく 東の広場
- コース：全3コース（知育コース、体力コース、記憶力コース）  
※難易度が違う3つのコースで構成されています。
  - (1) 【全国初】未就園児も利用できる「知育コース」
  - (2) 多くの障害物やアスレチックアイテムの中を進む「体力コース」
  - (3) 自分の記憶を頼りに難易度の高いからくりの中を進む「記憶力コース」※コースの名称は変更する可能性があります。
- 利用料金：お一人様1コース200円（税込）  
※3コースはそれぞれ別料金となります。  
※知育コースを利用される3歳以下のお子様の引率者は無料です。
- 所要時間：各コースおよそ約20分
- 大きさ：約12m×約10m 高さ約13m

公表された立体迷路のイメージ図



図\_立体迷路整備イメージパース

高さ13メートル・4層

3コース設定

# るなばあくに立体迷路

前橋市中央児童遊園「るなばあく」(同市大手町)に、大型の立体迷路が登場する。子どもから大人まで楽しめるよう、難易度が異なる3コースを設け、3月20日に営業を始める。市などは新たな魅力で客層を拡大し、昨年11月に開園65周年を迎えた園をさらに長く愛される施設にしたいと考えて。

橋 幼児から大人まで  
前 3月20日営業開始

市と指定管理者のオリエンタル群馬が10日発表した。立体迷路は、4月以降の指定管理期間、高さ13メートル、4層建てに相当する13メートルの4層構造で、木製の立方体を組み合わせる。Iコンソーシアム(MMC)の代表企業として同社が設置し、構成企業の泉野建設が基礎・擁壁工事費を負担する。

立体迷路は園内東部に設置。縦横それぞれ12メートルと10メートル、設定し、出口を目指す。

各コースとも所要時間は約20分。料金は1コースにつき、1人200円。定員は最大190人。同様の立体迷路の利用率金は400〜500円が一般的で、全国でも最も手軽に遊べる料金設定という。るなばあくは、1954年に開園し、世代を超えて愛されてきた。ただ、老朽化した施設の整備や少子化への対応に向け、新たな客層の拡大を検討。狭い敷地に新たな遊具を導入することになるため、立体的な整備が不可欠と判断し、子どもの知育や健康につながる立体迷路の導入を決めた。

2020年1月11日付 上毛新聞社

<本資料に関するお問い合わせ先>  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011  
URL: <https://www.oriconsul.com/>  
統括本部 宮内、丸山